

イエス復活の後、イエスをキリストと信じる人々の数は増えていきました。彼等が形成した初代の諸教会は、キリスト教信仰の礎を造ったという意味で、キリスト教史の中で最も重要な役割を果たしました。

しかし、これらの教会の歩みは決して順風満帆なものではありませんでした。主イエスの福音に忠実であろうと決心した人々も、私達と同じように弱さをかこつ人間であったことに変わりはありませんでした。彼等にとって、古い伝統から抜け出すことは至難の業だったのです。

その顕著な例として、現在のトルコにあたるガラテア地方の諸教会の状況を振り返ってみたいと思います。ガラテア地方のクリスチャンには、ユダヤ人以外の、所謂異邦人が含まれていました。しかし、ユダヤ教の伝統から抜け出せない保守派の人々の中から、次の様な主張がくり広げられるようになったのです。異邦人は、まずユダヤ民族の習慣や伝統を学び、それらを守らなければ、クリスチャンになる資格はないというのです。つまり、信仰に先行してユダヤ人になることが、クリスチャンの必須条件だと主張したのです。

また保守派の問題提起者達は、自由人と奴隷と一緒に食事をし、礼拝を守ることも否定しました。教会で奴隷が自由人と平等な立場で飲み食いし、肩を並べて祈るなどとはとんでもないと言うのです。

それに加えて、彼等は、女性が男性に福音を教えるということもままならぬと主張しました。教会の頭はあくまでも男性であり、女性は黙って男性の言う通りにすればよいと言うのです。

不幸なことに、ガラテア地方の諸教会の人々は、保守派の主張が強くなるにつれて、だんだんと萎縮し、主イエスの下における人間の平等ということ余り言わなくなりしました。多くの人々が、再び宗教的差別、社会的差別、性的差別になびくようになったのです。

この情けない状況を宣教の旅の途上で伝え聞いた使徒パウロは、暗澹たる気分になります。主イエスがもたらしたあの良き福音に突き動かされて生きる決心はどこへ行ってしまったのか。いたたまれなくなったパウロは、その悲痛な心境を、ガラテア地方の信徒への公開書簡にこう記しています。「できることなら、私はすぐあなたたちの所へ飛んで行って、語調を変えて話したい。あなたたちのことで今全く途方に暮れている。」

そして、パウロは主イエスの福音の中心を簡潔な言葉で要約してみせます。「あなたがたは、皆信仰によって、キリスト・イエスに結ばれているのです。」つまり、主イエスは、あなたたちのために宗教的、社会的、性的差別の壁を打ち砕かれたのではなかったか。差別の壁でがんじがらめにされていたあなたたちは、その代わりに、キリストを着物のように体に羽織った筈ではないか、と言うのです。「洗礼を受けてキリストに結ばれているあなたがたは、皆、キリストを着ているのです。」

ガラテア地方の諸教会に宛てたパウロの書簡の最も重要な部分は以下の言葉にあります。「そこでもはや、ユダヤ人もギリシャ人もなく、奴隷も自由な身分の者もなく、男も女もありません。あなたがたは、キリスト・イエスにおいて一つだからです。」

この書簡が書かれた2000年後、私達はこの日米合同教会でこのパウロの言葉を心して継承していかなければなりません。何故なら、私達もまた気をつけないと、ガラテヤ地方のクリスチャン達の轍を踏むことになりかねないからです。

世界を見回すと、女性は牧師になる資格がないという規約を頑なに守っている教会があります。エイズによる病気のニュースが世界を震撼させた時、エイズ菌を抱えた人はお断りという張り紙を出した教会がありました。現在でも、同性愛の人と一緒に礼拝を守ることを断るクリスチャンがいます。

私達は伝統によって身を守るではありません。キリストを着るのです。この世の価値観で身を覆うではありません。キリストを着るのです。社会の波に乗って泳ぐではありません。キリストを着て生きるのです。

賀川豊彦という方は、大正時代に神戸の最も貧しい新川という地域で伝道をしていました。ある冬の夜のことで、だれか戸の前にたたずんでいる気配がします。開けてみると一人のあどけない少女が寒さに震えながら立っていました。賀川牧師は彼女を家に招き入れ、火鉢の前に座させます。奥さんのハルさんが自分のはんてんを脱いで着せてあげます。ハルさんが言います。「遠慮しなくていいのよ。キリスト様のはんてんだから。」一人の牧師と、牧師夫人がイエス様のはんてんを羽織った少女と一つになります。主イエスの福音がもたらす喜びの真髄がここにあります。

イエスを着る生き方には厳しさがつきまといます。社会の流れに抗して生きることを余儀なくされるからです。しかし、それは、同時に、真実の平安と喜びに満ちた道でもあるのです。

「イエス・キリストを着る。」これ程私達に人間らしく生きる勇気と希望を与えてくれるものがあるでしょうか。